

令和5年度学校評価報告書

池上学院高等学校

令和5年12月に職員、生徒、保護者に対し行ったアンケートに基づき自己評価を行い、令和6年2月20日に外部委員4名、校内委員9名による学校関係者評価会議を経て、次の通り学校評価報告書としてご報告します。

1 本校の教育理念

<p>*生徒本来の良さを見出し、認めて、励まし、引き出す”愛情教育”</p> <p>*基礎・基本を重視し、「わかる喜び」、「学ぶ楽しさ」、「やったらできた」という感動と自信の実現</p> <p>*社会的自立をし、人のために貢献できる人間の育成</p>

2 年度方針

<p>①変革と挑戦</p> <p>②ジリツ（自立と自律）・自考・自走</p> <p>③対話</p>

3 自己評価・学校関係者評価の概要と改善方策

（評価記号の説明） ○：肯定的な評価 ●：改善すべき課題

評価項目	自己評価の結果	学校関係者評価の結果
学校経営	<p>○建学の精神は良く理解され活かされている。</p> <p>○職員研修は年間を通して組織的・計画的に実践された。</p> <p>○情報公開・コンプライアンス重視の取組には改善が見られる。</p> <p>●部署間の連携協力と労働環境の整備は進みつつあるがまだ不十分と考えている職員がいる。</p>	<p>○今年度の研修は計画的・組織的に取り組んだことが伝わってきた。</p> <p>●組織の改革に伴い、職員に戸惑いがなかったか、または一時的なものであったかなどを検証する必要があるのではないか。</p> <p>●主観的判断よりも数値化できるものは数値化することが必要ではないか、という意見もあった。</p>
改善策	<p>(1)掲げられた理念や方針に対する取り組みと、成果に対する評価を行う。</p> <p>(2)学園研修等により組織・体制の改革について一層の理解を深める。</p>	
組織運営	<p>○コロナ感染対策や緊急時の対応については、組織的な指示連絡体制のもと適切に行われていた。</p> <p>○会議等を通して職員間の共通理解をはかる体制はできている。</p> <p>○生徒・保護者への連絡体制は改善され、徐々に定着してきた。</p> <p>●ICT環境の整備は一定程度進み、効率化と意思の疎通が図られ、さらに有効な活用方法を検討する段階に入った。</p>	<p>○衛生委員会が組織されコロナ禍でも組織的な活動ができた。</p> <p>○コロナ対応ばかりでなく、普段の連絡も適切に行ってもらったと思っている。</p> <p>○保護者との連絡は、札幌ではメールの活用ができるようになった。</p> <p>○一般コース等ではタブレットを使った学習が定着した。</p> <p>●ICT環境の整備に取り組むことと、成果がどうであったかを分けて考えることが必要ではないか。</p>
改善策	<p>(1)生徒・保護者との連絡方法を全校的に確立する。</p> <p>(2)ICT機器の効果的な活用に向け、組織的な運用と普及に努める。</p>	
広報活動	<p>○広報活動全体に対し、肯定的な評価が多い。</p> <p>○広報活動により本校の認知度が高まっていると感じている職員が多い。</p> <p>○広報活動をすることにより、地域の情報が得られ教育環境の現状や変化を知ることができた。</p> <p>●広報活動から得られた教育情報が十分に共有されていないと感じる職員がいた。</p>	<p>○コース設定は生徒の様々な学習に向かう姿勢に良くフィットする形になってきている。</p> <p>○変化の激しい社会での募集活動は困難が予想されるが、その中で本校の特色を良く伝えている。</p> <p>●通信制の今日的なあり方や役割など研修を深める必要がある。</p> <p>●情報の共有においてはそれぞれの地域の特性をふまえ、求められているものを把握し、職員にどのように伝えるか考える必要がある。</p>
改善策	<p>(1)教員・事務局との連携や情報共有力を高め、学校全体で生徒募集活動をしていくという意識を高める。</p> <p>(2)教育情報を収集し、職員間で共有する方法については広報にとどまらず、全校的な課題として検討する必要がある。</p>	

評価項目	自己評価の結果	学校関係者評価の結果
教育活動全般	<ul style="list-style-type: none"> ○一人ひとりの生徒に寄り添った教育の充実には成果があった。 ○行事などの特別活動への取り組み方の評価には改善が見られる。 ○生徒情報の一元管理、教育のICT化への取組は定着し、安定してきている。 	<ul style="list-style-type: none"> ○コロナが落ち着いた後、札幌・地域共に本来実施していた行事ができるようになり、それぞれ工夫した内容で実施した。 ○池上の特性である、一人ひとりに寄り添う教育は生徒が高い評価をしている。 ○生徒をよく見てくれていると感じている生徒・保護者が多く、高い評価となっている。
改善策	(1)行事など特別活動の一層の充実をはかる。	
学級・キャンパス運営	<ul style="list-style-type: none"> ○教育環境の改善・充実については教員・生徒とも一定の評価をしている。 ○生徒・保護者との情報共有は高い評価を得ている。 ○生徒が抱える様々な問題が多様化する中、スクールカウンセラー やスクールソーシャルワーカーとの連携が定着し成果が見えてきた。 	<ul style="list-style-type: none"> ○この分野で生徒・保護者から高い評価になっていることは全体的に良いと見て良いのではないかと。 ○スクールカウンセラー やスクールソーシャルワーカーとの連携も徐々に円滑になり、より踏み込んだ相談が可能になった。 ●自分の子どもに関する情報はもらえているが、他生徒との関係までは分からない所がある。
改善策	(1)生徒を支援する体制を全キャンパスで充実させるため、校内体制の整備と関係機関との連携を図る。 (2)生徒・保護者と確実に情報共有できる環境を整備する。	
学習指導	<ul style="list-style-type: none"> ○指導法の創意工夫・改善を行い日々の指導に活かした。 ○スクーリング指導においては研修の成果が現れつつある。 ●教材作成および点検で課題意識をもって取り組んできたが、成果はまだ不十分である。 ●「興味・関心」「やる気」を引き出す工夫は職員の評価が低めに出ている一方で生徒の評価は高かった。これは教員がさらなる向上心を持って取り組んでいると見る事もできる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○保護者としてはきめ細かい指導であると感じている。また個別指導で生徒の意思を大切にしてくれていると感じている。 ●職員評価が昨年度から下がった項目については、指導内容が低下したのか、職員の向上心の現れなのかは検証する必要がある。今年度方針が「変革と挑戦」で自ら考え、「教える」から「考えさせる」指導をする中で、職員にさらなる可能性に挑戦しようとする意識が出てきたことの現れとも考えられる。
改善策	(1)学習内容のさらなる充実を目指し改善に努める。 (2)レポートやテストの作成・点検を一層充実させ、より信頼できる教材作成にあたる。	
生活指導	<ul style="list-style-type: none"> ○職員間の連携、共通理解に基づいた生徒指導ができています。 ●コースにより、生徒と接する機会が限られる中での指導のあり方について研修を継続する必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ○多様な生徒に対し、良く対応している。 ○生徒指導から生徒支援へ転換を図った。新しい取組に苦勞もあつたが、成果も出てきた。 ●生徒自ら判断し行動することを目指し、今後は生徒と関わる機会が限られる地域Cを含め、この考え方を広めていくことが課題である。
改善策	(1)個々の指導において指導から支援へ転換させた教育を実現させる。 (2)各コースや地域の特性に応じた指導方法について研修し実践につなげる。	
進路指導	<ul style="list-style-type: none"> ○生徒にとって必要な進路情報の提供に努め、生徒からは概ね高評価を得た。 ○進路に関する諸手続は円滑に行われていた。 ○準備段階から出願、試験に至る具体的なサポートは職員、生徒共に高評価であった。 ●生徒が自分の進路に主体的に関わるための指導は今後も継続して行う必要がある。 ●指導機会が限られる中での計画的・組織的な指導のあり方に課題があった。 	<ul style="list-style-type: none"> ○最初は卒業することを目標に考えていたが、本校で学ぶ中で卒業後の進路についても考えられるようになった。 ●保護者と連携した指導について保護者の評価が低く出ている。保護者からも三者面談の時間を増やしてほしいとの要望もあることからこの点への対応の必要がある。 ●進路について生徒の関心が低い実態がある。背景には生徒は卒業を目標としており、中にはまだ卒業後の進路まで意識が向いていない生徒もいることが上げられる。
改善策	(1)生徒の進路意識の喚起、保護者との情報共有に取り組む。 (2)各コース・キャンパスを統括した進路指導を計画的・組織的にを行い、確実な情報の提供と手続きを行う。	